

備えて主を待つ

だから、目をさましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないから
です。
マタイ 25:13

なぜなら、御座の正面におられる小羊が、彼らの牧者となり、いのちの水の泉に導いてくださるからです。また、神様は彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださるのです(黙示7:17)。

私たちの心が邪惡に汚れることはありませんように、
どうか、私たちが正しくいられますように、
復活の光が放つ、永遠の光の中におられる主に祈ります。

聖歌 635
祈り お父様。私たちがあなたの訪れを期待し、そのために用意しながら
生きることができるように助けてください。私たちの日々を、あなたへ
提供する喜びあるものとしてください。
イエス様の御名において。アーメン。

リン・ローズ
テキサス州 リッチランドヒルズ

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

6月12日(火)

誠実を求める

聖書朗読 詩篇 41:4~13

誠実を尽くしている私を強くささえ、いつまでも、あなたの御顔の前に立たせてください。
詩篇 41:12

世界の实力者たちは、誠実でしょうか？
俳優やスポーツ・スター、政治家、聖職者たちは誠実でしょうか？
政府や自治体は誠実でしょうか？
あなたや私は誠実でしょうか？

この世界は誠実を求めて叫んでいます。私たちは、世界が健全で正直で完全無欠であるようにと願ってきました。

神様が心にかけてくれたダビデでさえ、誠実さと苦しい組み打ちをしました。姦通と殺人の罪は、この神様のしもべの完全無欠さについて、私たちの心に疑問をなげかけます。ダビデが敵たちから逃走するために人生の多くの時間を費やしていたとき、彼はいったいどのようにして自分自身を健全で完全だと考えることができたのでしょうか？

詩篇 19編では、ダビデが本当に誠実になろうと、胸のうちを打ち明けています。

神の慈悲を求めて、罪を捨てよう。
この世の雑音を消し去り、
私の人生を誠実なものとするのできる
唯一の力である神に向かおう。

誠実を求めていますか？ でも、あなた自身の内側や世界中のどこをさがしても、「誠実」をみつけることはできないでしょう。それは神様だけがお持ちです。それは、主の御名によって呼ばれた者たちへ、主から贈られるものです。あなたを本当に完全にすることができるのは神様だけなのです。

讃美歌 508

祈り 主よ。私は長い間完全無欠さを求めています。私はあなたの前に私の罪を明らかにし、あなたのいつくしみをもとめます。世界から私の耳を離し、私の目があなたに向いていますように。永遠から永遠へ、あなたをほめたたえます。
イエス様の御名において。アーメン。

ジェス・ピーターソン
テキサス州 ラボック

6月13日(水)

暗闇のなかの光

聖書朗読 詩篇 57編

いのちの泉はあなたにあり、私たちは、あなたの光のうちに光を見るからです。
詩篇 36:9

あたりは真っ暗でした。ガイドが、火山活動でできた溶岩の洞穴深く私たちを案内するにつれ、恐怖が高まっていき、私は窒息してしまいそうな息苦しさを感じました。

「あわてないで、落ち着いて」。ランプに火がともされると、私たちの恐怖は消えました。私たちはまだ洞穴の奥深くにいるのですが、もう暗闇は怖くありません。

ダビデが洞窟のなかにサウルから逃れたときのことを考えてごらんください。それは恐怖の時間だったはずですが。サウルはダビデを殺したかったのです。ダビデが洞窟の奥深くに隠れていたとき、彼は「魂の暗い夜」をすごしたのです。ライオンやわなが幻想となってダビデの心を悩ませました。彼は神様のあわれみを求めて祈りました。すると彼の暗闇のなかに、神様の光がもたらされました。

天のはるかな高みから、神様の愛と誠実とが真っ暗な洞穴へと送られてきたのです。世界のはじめに神様が言われたように、ダビデにも言われました。「光よあれ」。ダビデは喜びの叫びをあげました。「私は夜明けに目を覚ますでしょう」。なぜなら、神様の光がダビデの恐怖心を吹き飛ばしたからです。私たち自身の恐怖の洞穴の中でも、ダビデが私たちにその同じ光を指差しています。

御翼の陰に、喜びが、
うれしい喜びがある。

—————E・O・エクセル

讃美歌 55

祈り お父様。私の暗闇のなかで、あなたの光へ私の目を開いてください。
イエス様の御名において。アーメン。

エルマー・プラウト
カリフォルニア州 ウッドランド

6月14日(木)

信 仰 の 飛 躍

聖書朗読 マタイ 14:22～36

「それは、人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます。」
マタイ 19:26

イエス様の生涯のなかで、もっともすばらしい話の一つは、イエス様が水の上を歩かれた話です。イエス様は、嵐をなだめたり、食べ物を数倍にしたり、あらゆる病気を治したり、触れてはいけないものにさわったりして、いつも弟子たちを驚かせ続けていました。この湖上を歩くという話は、とりわけ、イエス様が行った数々の不可能な業のなかでも、特別な話の一つといえるでしょう。

ペテロはしるしがほしかったのです。奇跡の証拠が欲しいという彼の要求に対し、イエス様は彼を水の上へと招きました。「来なさい」。しばらくの間、ペテロは神様の力をじかに分けてもらって水の上を歩きました。彼が経験したことは、イエス様お一人のみに許されていたことでした。ペテロの信仰の飛躍が、彼が水の上を歩くことを可能にしたのです。

しかし、信仰の飛躍は誤解されやすいものです。自分がしたいことで、その気持ちを抑えることができない時に、それらの行いを何でも正当化するために使われがちです。「それは信仰によって即座に行なわれた」と単に言い張ることができます。

たった一つの違いが信仰と愚かさを区別します。それは、イエス様の差し伸ばされた手です。もし、ペテロが他の時に水の上を歩こうとしたなら、泳ぐことになったでしょう。しかし今回、そこにはイエス様がいらっしゃってペテロを励まし、招き、待っていてくれました。ペテロは、主から目をそらせたときに、ぬれただけでした。

さあ、今日、イエス様の差し伸ばされた手をさがし求めなさい。

讃美歌 319

祈 り お父様。あなたの導きは私が今日求めているものです。私はあなたの信義と正しさを信頼します。私の目があなたを見つめ続けられるように、私に途切れることのない焦点を与えてください。

イエス様の御名において。アーメン。

マイク・プラザー

テキサス州 プレインビュー

6月15日(金)

こ れ は 何 に 使 う の ？

聖書朗読 コロサイ 1:13～17

どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、教会により、またキリスト・イエスにより、栄光が、世々にわたって、とこしえまでありますように。アーメン。

エペソ 3:20～21

両親を訪ねると、私はいつもきまって父の作業場へ行きます。父が作った多くの物を見ながら、私は自分に問うてみます。「これは何に使うのだろうか?」。すると、父はいつもにやりと笑って言うのです。「おまえはこれが何だかわからないのかい?」。それから父は楽しそうに自分の木工作業場で彼がやってきた発明の品々について説明してくれます。

たとえば、もういらなくなったディーゼルの機械を手に入れたとき、父はただ修理するのではなく、何かを作り出します。それをどうしようと想像してから、自分の目的を達成するために使えるような、新しい仕様や道具を産み出すのです。

私たちが生きるこの世界は、作業場のようなものです。この世界はただ一度の創造で出来上がったものではありません。この作業場では、創造主の目的に到達するために今でも新しい創造が行われているのです。

私たちの神様は創意に富んだ方です。神様は、私たちが作業場を歩き回りながら、「これは何に使うの?」と言うのを喜ばれます。なぜなら神様は、ご自分が作られたものはすべて、私たちの内なるキリストを通してご自分の目的を達成するためであるということを、私たちにお話になることが大好きだからです。(ローマ 8:28～29)。

讃美歌 461

祈 り お父様。あなたは、キリストがその目的を達成するのを私たちが助けるようにと、さまざまなものを私たちのまわりに創造されました。そのあなたの創造物を見ることができますように、そしてあなたが私たちの内に働いていることもわかるように助けてください。

イエス様の御名において。アーメン。

ディビッド・バーデン

カリフォルニア州 フラートン

6月16日(土)

主はどうしてそれをする事ができたのか？

聖書朗読 ルカ 6:12~16

人々はあなたがたを会堂から追放するでしょう。事実、あなたがたを殺すもの
みな、そうすることで自分は神に奉仕しているのだと思う時が来ます。

ヨハネ 16:2

イエス様は、ご自分の弟子の中から12人の使徒を選ぶ前に、一晩中祈りました。選ばれる12使徒はそれぞれ、エルサレムで、全ユダヤで、サマリアで、そして地の終わりまで、主の証人となるべく特別な役割を持たされていたのです。私は、イエス様が祈りながら弟子を選考しているとき、彼の心に、「私は弟子たちを苦しみ、迫害、そして死へと呼ぼうとしている」との認識があったのではないかと思います。彼らの家族のこと、また彼らの国が彼らを切り捨て、その命が危うくなるということ考えると、私は本当のことをいうと、ときどき、誰かをキリストの信奉者とする
ことをしぶろうする気持ちが起きます。

イエス様はどうしてそれをする事ができたのでしょうか？ イエス様も人間として苦しんだにちがいありません。しかし疑うことなく、主イエス様はご存知
でした。天の父と永遠に一緒にいるという未来の栄光は、この地上で私たちが受ける
平安よりもずっと価値があるということ。

私たちが何も苦勞しないで暮らしていけるのは、ここに、
主の慰めと代償があるからである。それは、暗いトンネル
に入るまで、誰も気づかないランプの明かりのようなもの
である。

—— R・W・バーバー

聖歌 238

祈り 親愛なるお父様。どうぞ私たちを祝福し、今日あなたを信じるがために
迫害されているすべての者に近づけますように。イエス様への私たちの
信仰を必ず告白することができるように信仰を強めてください。

イエス様の御名において。アーメン。

ジャニス・クラマー

カリフォルニア州 エスコンディード

6月17日(日)

神のそば近く

聖書朗読 詩篇 73:21~28

しかし私にとっては、神の近くにいることが、しあわせなのです。 詩篇 73:28

末娘が、宣教の経験をつむために、ペルーに旅をしました。その旅の準備は
とてもたいへんでした。パスポート、予防接種、資金集め、聖書学級計画作り……。
彼女が忙しく外側を準備しているとき、神様は彼女の内側を準備されていました。

宣教グループが旅から帰ってきたとき、彼女らが肉体的、物質的な困難、異
なった環境によって引き起こされた病気や睡眠不足といったものによく耐えぬいた
ことが、娘の話から分かりました。私たちにとってさらに重要だったことは、神様
が彼女の右手となり宣教グループを導いているということを、彼女が学んだことで
した。

私たちの身体は神様の器であり、そのメッセージを大切に運んでいます。し
かし、神様がその内部でなさることがその本質です。私たちは、粘土細工の器であ
り、その器で、キリストの香りを運んでいるのです。

神様はペルーでのご自分のお仕事を、若い人々の弱い器を使ってなさいまし
た。そして、神様は私たちのすべてをお呼びになり、私たちはそれに従って、一緒
にそれをしました。

娘の旅の話のなかで、私たちを最も喜ばせたのは、彼女がこう言ったときで
した。「私は神様がそこにいらっしゃるのがわかったわ」。

讃美歌 519

祈り お父様。あなたがいつもいつもそこにいてくださることを感謝します。
今日、あなたが私たちと一緒にいてくださると知っているものとして私
たちが行動できるようにと祈ります。永遠に続く変化をこの世にもたら
すために、私たちをお使いください。

イエス様の御名において。アーメン。

シェリー・レアムス

テキサス州 ラボック